



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和4年9月14日
文責：校長 江上 知男



道徳学習の足跡(4の2)

道徳は「特別の教科」です！

保護者の皆さんにとって、「道徳」ってどんな印象をお持ちですか？私が子どもの頃は、よくNHKのテレビ番組が教材になっていました。私は、「道徳を学んだ」という意識は全く残っていません(汗)。

実は、平成30年度から(熊本は平成28年度から)道徳を「特別の教科」として取り組んでいます。「教科」にした理由は、「いじめ防止に大きな効果が

期待できる」「学校教育の『中核』として期待できる」ことが言われています。ただ、「教科」となると専門性が問われますが、あえて免許を設けず中学校でも学級担任が指導します。また、教科化されたことで「教科書」ができました。さらに、「数値の評価」には無理があるので、「文章の評価」となっています。

それでは、何のために道徳を「学ぶ」のでしょうか。簡単に言えば「自立へ向かうための道徳性を養うため」です。「自立」とは、自己中心的にならずに、自分で判断し行動することです。そして、それを支えているのが「道徳性」と言われています。私たちは、「周りからどう見られるか」を行動の基準にしたり、自分の不快感(ムカツク!)を押さえられないまま行動しがちです。道徳性を養うことで、日常生活の課題に直面したとき、周りを気にしたり、気分次第で短絡的に考えたりするのではなく、本校の教育目標のように自分で「気づき、考え、行動する」…すなわち「自立」に近づく力を発揮できると考えるのです。

道徳について考える上で、「家庭・地域の背景は無視できない」と言われます。周りの大人の姿が、「将来の見本として大きな影響を与える」と考えられるからです。ぜひ、学校と各ご家庭や地域が連携して、子どもたちの道徳性を養っていききたいものです。茶の間の話題にしていいただければ幸いです。

教育実習生がやってきた！

9月に入って、3人の教育実習生が来られています。3人とも本校の卒業生とあって、私たちも嬉しいし、子どもたちも大喜びです。

松井日菜子さん(京都ノートルダム女子大)と野田豪琉さん(九州ルーテル学院大)は9月末まで、米光凜音さん(九州ルーテル学院大)は9月16日までと期間は違いますが、担当の先



左から松井さん、野田さん、米光さん

生から指導を受けながら、教育現場における子どもと関わることの楽しさや授業等の準備の大変さを経験されています。私も3人と話す時間をいただきましたが、話を聞く真っ直ぐな視線と相手意識を持った受け答えに、「謙虚さの大切さ」を私の方が教えられた気がしました。3人には、「必ず教師となって教育現場に帰ってきてください」とお願いしました。本校での先生や子どもたちとの出会いや実習経験を通して、「自立したたくましい社会人」になれることを期待しています。

「修学旅行保護者説明会」を実施しました！

9月8日の夜、「屋根修理」が終わった体育館で行いました。6年担任及び旅行社「熊本バスツーリストビューロー」の担当者から、旅行日程と感染症対策等を詳しく説明させていただきました。保護者の皆さんからは、「体調急変時の対応」「延期した場合の日程決定」「振り込み方法の確認」等の質問をいただきました。全体として「6年生に、貴重な体験学習である修学旅行を何としても経験させよう」という雰囲気溢れていて、学校も家庭もその決意が固まった有意義な説明会だったと感じました。ご多用中の出席、ありがとうございました。